

自由論題 4「中国と(北)朝鮮」・報告 2

報告テーマ

「米国中心主義思考」と冷戦後中国の北朝鮮政策
U.S.-centrism Mentality and China's North Korea Policy after the Cold War

氏名(所属)

張 雲(新潟大学)

要旨(800字程度)

北朝鮮による繰り返す核実験と長距離弾道ミサイルの発射で、朝鮮半島情勢の緊迫度が格段に増し、中国対北朝鮮政策もかつてない内外の批判と圧力にさらされている。米国と日本から見れば、北朝鮮核危機と挑発行為は中国が十分な圧力行使してこなかったと批判を強めている。一方、韓国は、中国が北朝鮮を十分に抑え込まないにもかかわらず、韓国の自衛措置の一環として THAAD の導入に強く反発、韓国に対して実質的な経済制裁に強い不満を抱いており、中国の朝鮮半島政策における「二重基準」と批判している。一方、9月に、北京大学国際関係学院の賈庆国院長は北朝鮮の非常事態に備えるための米中交渉を主張し、それに対して浙江省国際関係学会副会長朱志華氏から賈氏の発言を「米中共謀論」と「売国」と批判し、中国国内の北朝鮮政策をめぐる論争も表面化している。12月、王毅外相が中国外交のシンポジウムでの講演で「朝鮮半島核問題について、中国は誰よりも努力しており、誰よりも犠牲を払ってきた」と困惑と不満を強くにじませた。このように、中国の北朝鮮政策は非核化の目的も達成できず、さらに中国と日米間との関係を阻害し、国際社会の名誉も傷つけることになった。

もっと理解に苦しむのは北朝鮮が近年中国をほとんど公に批判、侮辱することである。2017年9月の第6回の核実験は中国主催の BRICS サミットの最中に行われ、11月に金正恩氏が習主席の特使として訪朝する宋濤中連部長との面会を断った。中国は北朝鮮にとって最大の貿易・援助国であり、中朝貿易は北朝鮮対外貿易の 88%にも上っている。なぜ、国内外の圧力にさらされても、中国の北朝鮮政策の転換がなかったのか。なぜ中国に一方的に経済依存している北朝鮮は逆に中朝関係の主導権を握ることができたのか。中朝関係の本質はなんだろうか。このような矛盾的な関係はどのようにできたのか。今後、中国にとって北朝鮮政策に出口があるのか。本稿は、1990年から今まで30年間弱の中国の北朝鮮政策の変遷を分析し、上記の疑問に答えたい。